政治経済英語 II

科目ナンバリング　ENG-110
選択必修　　2単位

寺川　隆一郎

1. 授業の概要（ねらい）

「政治経済英語Ⅰ」に引き続き、本授業でも、「多読」用の教材を使い、まとまった量の文章を読み切る経験を積んでもらう。指定教材は、政治経済、歴史、社会問題をテーマにしたものである。高校まででは触れることの少ない、時事英語や経済英語に触れ続けることで、実際の英文を読む力を養うことを目指す。
教科書は、以下の候補から数冊選定する。

2. 授業の到達目標

英語で書かれた政治経済分野の文章を、辞書に頼らず大意をつかめるようになる
政治経済分野で頻出する英語表現や概念、単語を習得する

3. 成績評価の方法および基準

確認テスト30%、期末テスト40%、平常点30%

4. 教科書・参考文献

教科書
小林佳代（ジャイルズ・マリー訳）『The Japanese Economy 日本の経済』 IBCパブリッシング
トム・クリスティアン 『The Mark Zuckerberg Story Facebookを作った男：ザッカーバーグ・ストーリー』 IBCパブリッシング
Young, James Webb　A Technique for Producing Ideas　McGraw-Hill
参考文献
大西泰斗、ポール・マクベイ 『一億人の英文法ーすべての日本人に贈る「話すため」の英文法』 東進ブックス

5. 準備学修の内容

毎回の授業までに、教科書の指定された範囲を通読する。
毎回の授業では、2,000ワード（A4ダブルスペースで10枚）程度の長文を扱う。英文の難易度は英検2級レベル以上のものを予定している。英検準1級レベルの人が通読するだけでも30分弱かかる量と難易度である。自分の英語力と相談の上、十分に時間をかけて予習をしてくること。

6. その他履修上の注意事項

定員50名。超過する場合には抽選を行う。
英語の構文や、政治経済の概念・仕組みなどで不明な点があれば、授業時に質問すること。積極的な発言は平常点に加算する。

※授業の実施方式について
今年度の対面授業は、感染防止に十分に配慮したうえで実施する。教員と学生、学生と学生の身体的接触をできるだけ控えるため、資料や答案のやり取りは、すべてLMSを介して行う。具体的な実施方式は次の通り。
1.学生は、授業日の2日前にLMSにアップロードされる「内容確認問題」に事前に取り組んでくる
2.教員は、授業開始時間に「模範解答」をLMS上に表示させる
3.学生は、教室で、自分のスマホなどでこれを閲覧し、事前に準備した自分の答案を自己採点する
4.その後、各設問について、教員が一人ずつ指名して、文法事項について質問する。主に、「4文型」（大西文法）や、それを踏まえての修飾語句の構造についてでである。
5.自分が指名されたときでも、そうでないときでも疑問に思ったことがあれば、挙手して質問すること
6.最後に15分ほど、オープンクエスチョンの回答を準備・入力する時間を取る

7. 授業内容

【第1回】　ガイダンス
【第2回】　起業家論 (1)
【第3回】　起業家論 (2)
【第4回】　起業家論 (3)
【第5回】　起業家論 (4)
【第6回】　起業家論 (5)
【第7回】　確認テスト
【第8回】　政治経済論 (1)
【第9回】　政治経済論 (2)
【第10回】　政治経済論 (3)
【第11回】　政治経済論 (4)
【第12回】　英文記事に挑戦（1）
【第13回】　英文記事に挑戦（2）
【第14回】　英文記事に挑戦（3）
【第15回】　まとめと期末試験